

3 × 3 + 3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> • 作品を読んで、ストーリーラインが理解できる • 日常的で何気ない動作を表す語句・表現を知る • キャラクターの話し方に、男女差や性格の特徴が現れていることが理解できる • 色彩、風景や人の外見、また身体感覚、心情などを表す日本語独特の繊細な表現の意味するところがわかる 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本の伝統的な習慣（喪、お見舞いなど）の典型を知り、この作品でのそれと比べる • 日本人の宗教観、死生観、日本における「死後の世界」のイメージを知り、自分の国のそれと比べる • キャラクターの名前から、日本の人名には「意味」が込められていることに気づき、自分の国の命名法と比べる 	<ul style="list-style-type: none"> • 吉本ばななが日本／世界中で、どのように受け入れられているかを知る
できる	<ul style="list-style-type: none"> • 一編の小説作品を読了する • 日本語と自分の母国語の表現との違いを見だし、それについて説明することができる • 表記の違いが一種のコードであることに気づき、そこに込められた意味が推測できる • フォーマルな話し合いの中で適切な敬語表現を使って発言できる • 適切な敬語表現と形式にのっとり、フォーマルな手紙が書ける • 自分の作品（レポート／スピンオフ小説が書ける） 	<ul style="list-style-type: none"> • スピンオフ小説を書く場合、自分の小説でのキャラクターにも名付けやししゃべり方で性格が表れるように工夫する • 日本でふさわしい哀悼の意の表し方や、他人を励ます時の言葉などが使えるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> • インターネットを使って、吉本ばななに関する情報を集めたり、小説の時代背景などを調べたりすることができる • 日本人・外国人ゲスト（一般人、教員などの専門家、学生）を迎えての読書会を準備・運営するにあたり、自分の役割を、責任をもって果たすことができる • レポート／スピンオフ小説をまとめた「文集」またはホームページを作成するために、役割を分担して編集や印刷（注文）などをする。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> • グループディスカッション、ゲストを囲んでの読書会、ホストファミリー、日本人の友人などと小説の感想を共有する • 自分の作品を他者に読んでもらってコメントをもらう 		<ul style="list-style-type: none"> • 「文集」を関係者に送付したりホームページを公開することで、広く社会に意見を交換できる人を募り、繋がる事が出来る
三連携	<p>【学習者】：今後の読書活動への自信 【教室外】：学生が住むコミュニティの中で「よしもとばなな」を話題にして人（ホストファミリー、日本人の友達、クラスメート、先生、同じ趣味を持つ日本人や外国人とつながる。インターネット上でもつながりが出来る。 【他教科】：宗教学、民俗学、日本文学史、ITスキル</p>		